

【特別支援学校用】

令和6年度学校評価計画

<p>学校名</p>	<p>佐賀県立唐津特別支援学校</p>		
<p>1 前年度 評価結果の概要</p>	<p>・学校の教育目標に沿った教育活動を実施することができた。コロナ禍の影響が残った学校生活となったが、学校行事や学習活動を工夫し予定どおりの活動を行うことができ、児童生徒の主体的に学ぶ意欲や活動を後押しすることができた。</p> <p>・令和6年度においては、本年度の反省を生かし、更に工夫を重ねながら、充実したよりよい教育活動を行いたい。また、児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、学校、家庭、地域と連携しながら学校の教育目標を実現したい。</p> <p>・時間外在校等時間の一層の削減に向けて業務内容や行事の在り方について精選しながら働きやすい職場の実現に取り組みたい。</p>		
<p>2 学校教育目標</p>	<p>児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」をはぐくむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。</p>		
<p>3 本年度の重点目標</p>	<p>○子どもが今日の学校生活に満足し、明日の学校生活を期待することができる学校をつくる。</p> <p>○子どもが今日の学校生活を「自分から」「自分で」取り組み、「やりがい」「手ごたえ」を感じ、「精一杯」「存分に」活動し、「充実感」「満足感」に浸ることができる学校をつくる。</p> <p>○業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減を行い、働きやすい職場の実現を目指す。</p>		
<p>4 重点取組内容・成果指標</p>			
<p>(1)共通評価項目</p>			
<p>評価項目</p>	<p>重点取組</p>		<p>具体的取組</p>
<p>●学力の向上</p>	<p>●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着 ○小中高12年間の一貫した教育の推進</p> <p>○特別支援教育の専門性の向上</p>	<p>○個別の教育支援計画・個別の指導計画作成に当たり、十分な相談や説明があったと回答する保護者の割合70%以上 ○個別の指導計画を適切な指導・支援に生かすことができたと回答する職員の割合70%以上</p> <p>○自らの特別支援教育の専門性が向上したと思うと回答する職員の割合70%以上</p>	<p>・個別の教育支援計画について、個人面談前に各学部の係で適切な指導・助言を行う。 ・個別の教育支援計画は保護者と共に作成するという意識をもち、相談や説明を行う。 ・個別の指導計画について、早下校と合わせて読み合わせを計画して作成時間を確保し、級外も加わって内容の検討の充実を図る。 ・学部間の情報交換や進級等の際の引継ぎを計画的に行う。</p> <p>・特別支援教育に関する研修会を年間を通して計画的に実施する。 ・毎月自立活動に関する研修会を行う。 ・自立活動だよりを定期的に発行し、情報提供に努める。 ・児童生徒の主体的な学びや育ちにつながる授業づくりのため、各学部で各教科等を合わせた指導についての研修会や授業研究会を行う。</p>
<p>●心の教育</p>	<p>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</p> <p>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</p> <p>●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動</p> <p>○明るく楽しい学校づくり</p>	<p>○仲間とともに活動することにより達成感を味わい、コミュニケーションを取り合う力を育むことができる活動・場面の設定、学期に2回以上</p> <p>○職員は児童生徒の問題やトラブル等に適切に対応していると回答する保護者の割合80%以上</p> <p>●職員は、児童生徒のよいところを口頭や連絡帳などで保護者に伝えてくれていると思うと回答する保護者の割合70%以上 ●児童生徒が今日の学校生活に満足し、明日の学校生活を期待することができるように、一人一人の実態に応じた指導をしていると回答する職員の割合70%以上</p> <p>○児童生徒や保護者に対し、率先して挨拶や言葉かけを行い、明るい学校生活づくりに努めていると回答する職員・保護者の割合80%以上</p>	<p>・お互いを知り、思いやりの心を育むため、学部で知肢合同の単元を設定する。 ・様々な人々とコミュニケーションを取り合う力を育むため、交流及び共同学習や就業・施設体験、販売学習等を実施する。</p> <p>・年2回の学校生活アンケートによるいじめの認知・認知をし、組織的に早期の対応を図る。 ・学校生活の中で起きた事案に対して、迅速に適切な対応をとる。</p> <p>・保護者に対して、児童生徒の頑張りや成長を学級通信や連絡帳等で伝えていく。 ・学校生活の様々な場面において、意欲的に取り組むことができるように「できる状況づくり」を心がけ、職員全体で情報を共有し、一貫した支援を行う。 ・お互いの頑張りや達成感を共有したり、次の単元へ向けた意欲をもたせたりするために、集会や単元終了会を設定する。</p> <p>・児童生徒や保護者に対し、笑顔を添えて明るい挨拶や言葉かけを積極的に行い、明るく楽しい学校づくりに努める。</p>
<p>●健康・体づくり</p>	<p>●安全に関する資質・能力の育成</p> <p>○安全防災及び安全衛生に係る教育の充実</p>	<p>●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする</p> <p>○本校は、自然災害等に対する安全防災教育及び安全衛生について適切な対応をしていると回答する職員・保護者の割合80%以上</p>	<p>・「交通安全教室」や校外学習の事前学習等で児童生徒の実態に応じて交通ルールやマナーを学ぶ機会を設ける。 ・各月初めに単独通学生生に対して、公共交通機関を利用する上の注意点や最近話題になった交通事故やトラブルなどの情報で注意喚起する。 ・各学期始めに通学指導として、登下校中の見守り指導や支援をする。</p> <p>・安全防災教育における各種避難訓練を行い、自然災害等に対する備えをし、児童生徒や職員の防災意識を高める。 ・保健だよりや各学級で手洗い・うがいの励行や熱中症予防を呼びかけ、継続的に指導する。</p>
<p>●地域支援</p>	<p>●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実</p>	<p>○本校は、特別支援教育のセンター的機能の充実を図り、地域教育機関や福祉機関と連携を図ることできていると回答する職員の割合70%以上 ○特別支援教育エリアーダーと情報交換会等により連携を強化する。</p>	<p>・各学校の実態を踏まえた上で適切な支援内容や支援方法についての指導・助言を行う。 ・定期的な連絡会を計画し、福祉、医療などの関係機関との適切な連携、地域支援のためのネットワーク形成に努める。 ・特別支援教育エリアーダーとの情報交換の機会を設け、地域支援についての情報交換を学期に一度は行う。</p>
<p>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</p>	<p>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</p> <p>○職員一人一人の業務に対する意識改革</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</p> <p>○業務の効率化を考え、働き方の改善を意識したと回答する職員の割合70%以上</p>	<p>・毎週金曜日を定時退勤推進日とし、うち2回は完全定時退勤日とする。 ・個人研修の日やパーソナルタイムにより個人の業務時間を確保する。 ・会議時間の短縮を図るため、会議内容を精査し、時間配分を決めておく。</p> <p>・業務の効率化のアイデアを一人一人が持ち、実践するよう働きかける。 ・管理職が時間外在校等時間に行われている業務を把握し、改善へ向けた調整を行う。</p>
<p>(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目</p>			
<p>評価項目</p>	<p>重点取組</p>		<p>具体的取組</p>
<p>○進路指導</p>	<p>○一人一人に即した進路指導の充実</p> <p>○児童生徒及び保護者のニーズに応じた情報を提供し、将来を見据えた指導・支援を行うことができると回答する保護者の割合70%以上</p>		<p>・保護者向けの進路学習会を、学齢や時期に応じて適切に実施する。 ・福祉サービス事業所の情報収集、提供に努める。 ・生徒の就業・施設体験先としての新規の企業や事業所を開拓する。</p>
<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p>			
<p>5 総合評価・次年度への展望</p>			